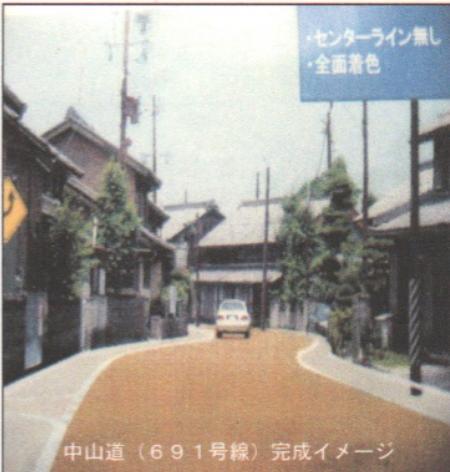


## 中山道間の宿 新加納

# まちづくり会かわら版

第10号  
平成26年  
12月15日  
発行  
新加納まちづくり会  
会長 小島秀俊



中山道（691号線）完成イメージ



市道那（430号線等）完成イメージ

## 第5回 歴史講座『総集編』開催 講師 坪内健治氏 旗本坪内氏と新加納村



平成26年12月6日  
ふれあいセンター

- 歴史講座（主な内容）
- 一、坪内氏の出自、系図
  - 二、木曽川の変遷（川並衆）
  - 三、織田信長との関係
  - 四、木下藤吉郎（秀吉）との関係
  - 五、徳川家康との関係
  - 六、関ヶ原の戦い（鉄砲隊）
  - 七、旗本坪内氏の成立
  - 八、旗本坪内氏の領地支配
  - 九、幕末・明治維新
  - 十、総集編

\*江戸時代、新加納に陣屋を置いた旗本坪内氏の歴史を詳しく学ぶことができ、大変参考になりました。（感謝）



落合宿



中津川宿



苗木城跡・（遠山資料館）



藤村記念館



馬籠宿

苗木城跡・中津川宿・馬籠宿を見学  
十月二十八日（火）好天に恵まれ会員二十三人が参加。中山道、東濃の三宿場を見学しました。  
苗木城跡（遠山資料館）そして、中津川宿の（歴史資料館）馬籠宿の散策と（藤村記念館）落合宿など訪ねました。

江戸の資料を整理展示、又景観の保全がされ、そして今も残る、江戸の町並みを堪能しました。

読みきり

新加納立場地区

## まめ歴史事典



新加納・芋島・長森を経て稲葉山へ向って進軍して来ます。

「これを迎えた美濃勢は信長軍に抵抗し切れないように見せかけ、一歩一歩後退し始めます。

信長軍は図に乗り、一挙に稲葉山へ迫ろうとして猛烈に前進しますが、敵を充分に引き入れたと判断した竹中半兵衛は「戦機到来せり」と全軍に反撃命令を下します。

「時や遅し」と待ちかまえていた一万余の美濃勢は、喚声をあげて一斉に織田軍へ突入したため、織田軍は各陣とも寸断され、前へも

後へも動けぬ窮地に陥ってしまいます。

織田の一・二・三陣および本陣は共に散々に敗れ、各陣の連絡はどうとも不可能となり、攻めたてられて後退することも不可能となります。

信長本陣も美濃の猛将日根野備中兄弟に

攻めたてられて後退することも不可能となり、全滅寸前という状況になります。

しかし、この日殿軍を承り五色の吹流しを打ちたて、はるか後方に控えていた木下藤吉郎秀吉の陣容は、前線の混乱に引き換えて微動だにしません。

「信長本陣危し、速に救援せよ。」と叫びながら、云騎梁田出羽守が木下軍の下に飛んで来ます。この時、日根野備中に追いつめられた信長は、「一旦散に尾張へ引きあげていい」と伝えられています。(参考文献 那加町史)

\*「繪本太閤記」は、公の歴史書ではありません。この時、日根野備中に追いつめられた信長は、「一旦散に尾張へ引きあげていい」と伝えられています。(参考文献 那加町史)

秀吉の本を「発表禁止」にしました!

とじなって帰つてゆきます。

続いてまた伝騎が来ますが、秀吉の回答は前と同じです。

やがて、各務原に暮色が迫ろうとした頃、木下軍から筵旗が空高くあげられ、大きく左右に振られます。それに応じて突然、稲葉山一帯から松明の火が点々と輝き初め、その数は数百を下らないかに見られます。

これは秀吉がこのことを予期して、尾張の百姓を狩り出し、稲葉山の背後にかくしておいたものです。

稲葉山城を全くの空城として出撃した美濃勢は、「すわ一大事」とばかり包囲陣をといて城へ引きあげ始めますので、半兵衛は声をからして「虚報である。心み止めれ。」と停止を命じますが、彼の命令は美濃勢に徹底しません。

残念にも半兵衛は信長を討ちちらしてしまいます。この時、日根野備中に追いつめられた秀吉は、「一旦散に尾張へ引きあげていい」と伝えられています。(参考文献 那加町史)

美濃斎藤「軍師、竹中半兵衛重治」と尾張信長「木下藤吉郎秀吉」が虚々実々の戦いを展開…。信長は、難を逃れ一日散に尾張へ引きあげた。自然の要塞である木曽川の大河と新加納台地は、難攻不落でした。

弘治二(一五六六)年四月

斎藤道三は子義竜との戦いに敗れ、長良川原で戦死。前日の遺言状には

「美濃國は信長に譲り渡す。」と記。

永禄四(一五六一)年七月

信長は、木曽川を越え美濃国加賀見

野(各務野)に兵を出された。

敵も井之口(岐阜)から斎藤軍が兵を出して、新加納村に配置した。

その間、馬のかけ引きもできない難所のため信長公はその日はこ帰陣された。以降、幾度も美濃進撃をするも失敗に終ります。若い信長にとって不名誉な敗戦であり、信長記等には簡単に記しています。(詳細不明。)

「繪本太閤記」では、次の内容で興味深く掲載されています。

「那加町史より」

信長はいかにしても稲葉山城を奪るべきであると決心し、全兵力一万騎を集め、木曽川の河田を渡つて美濃へ侵入します。

早くもこの挙兵を知った美濃若狭守(はさみ)

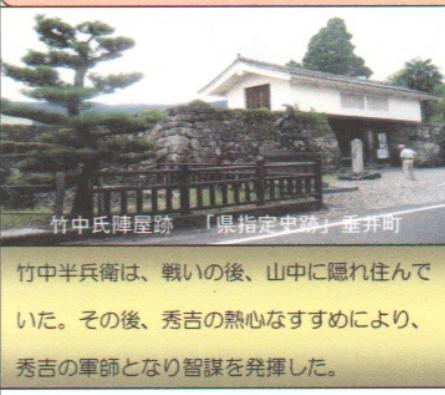
竹中半兵衛は、斎藤家浮沈の時と考え多年の恩義に報いるため、馬を稲葉城下に急がせ、彼

独特的の作戦計画を立てます。

信長方の第一陣は柴田勝家、第二陣は池田信輝

第三陣は丹羽長秀、第四陣は信長本体の順序で、

栗田は怒つて「やがてではない。即刻だぞ。」



## 新加納の戦い 戦国時代 永禄四(1561)年